

あいち民研企画

急増する不登校について考える

文部科学省の調査によると、昨年度（2022年度）小中学校を30日以上欠席した不登校の状態にある子どもは、前の年度から5万4000人余り、率にして22%増え、29万9048人となった。10年連続で増加し、過去最多となっている。このうち小学生が10万5112人で、10年前の2012年度の5倍に、中学生が19万3936人で、10年前の2倍に増えている。このほか、高校生も増加して6万575人だった。なぜ、こんなにも不登校が急増しているのか、子どもたちがどうしてこれほど生きづらいのか、私たちが真剣に向き合わないといけない問題です。皆さんで考え合ひましょう！

主催：あいち県民教育研究所

office@aichi-minken.sakura.ne.jp

日時； **2月23日（金・祝日）13:30～16:00**

会場； イーブルなごや 第1集会室（地下鉄「東別院」下車・徒歩5分）

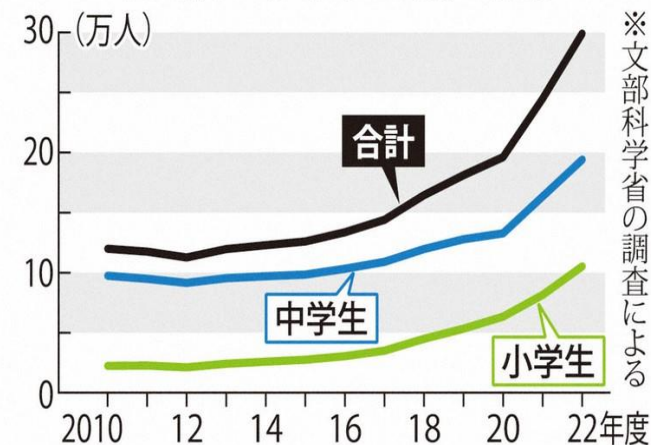
参加費； 無料（会員以外の方も参加できます）

日程；（13:15 受付開始）

13:30 開会 あいさつ
13:35～14:15 問題提起 I
14:15～14:55 問題提起 II
15:05～15:55 質疑討論・意見交流
15:55～16:00 まとめ・閉会

二人の方の問題提起報告を受けて、参加者の皆さんからそれぞれの立場からのご意見・ご感想を発言していただき、この不登校問題をどのように把握し、何をどのように取り組んでいっていいのかを考え合ひたいと思います。

不登校の小中学生数の推移



問題提起 I；柘植達志さん（不登校親の会代表）「不登校の激増をどう受け止めたらいいのか」

問題提起 II；石井拓児さん（名古屋大学）「不登校・登校拒否が告発する日本の学校・教育の新しい問題状況」